

平成30年第2回

遠軽町議会定例会会議録（第2号）

平成30年3月9日（金）午前10時00分開議

◎本日の会議に付議した事件

会議録署名議員の指名について

日程第30

一般質問

◎出席議員（16名）

議長	16番	前田篤秀君	15番	今村則康君
	1番	高橋義詔君	2番	稲場仁子君
	3番	佐藤登君	4番	秋元直樹君
	5番	一宮龍彦君	6番	竹中裕志君
	7番	渡部正騎君	8番	山谷敬二君
	9番	阿部君枝君	10番	前島英樹君
	11番	佐藤昇君	12番	山本悟君
	13番	黒坂貴行君	14番	岩澤武征君

◎欠席議員（0名）

◎列席者

町長	佐々木修一君	教育長	河原英男君
代表監査委員	村瀬光明君	農業委員会 会長	新国純一君

◎説明員

副町長	厂原收君	総務部長	加藤俊之君
民生部長	舟木淳次君	経済部長	澤口浩幸君
経済部技監	内野清一君	地域拠点施設準備室長	斉藤隆雄君
総務課長	鈴木浩君	情報管財課長	古賀伸次君
企画課長	佐藤祐治君	財政課長	大堀聡君

《平成30年3月9日》

地域拠点施設準備室参事	今井昌幸君	商工観光課長	菊地隆君
生田原総合支所長	門脇和仁君	丸瀬布総合支所長	只野博之君
白滝総合支所長	村上裕和君	会計管理者	荒井正教君
生田原総合支所産業課長	大辻祐一君	丸瀬布総合支所産業課長	伊藤雅彦君
教育部長	小野寺健君	教育部総務課長	大貫雅英君
監査委員事務局長	伯谷和昭君	選挙管理委員会事務局長	伯谷和昭君
農業委員会事務局長	河本伸二君		

◎議会事務局職員出席者

事務局長	安江陽一郎君	事務局主幹	渡邊亮司君
事務局係長	小玉美紀子君		

◎開議宣告

○議長（前田篤秀君） ただいまの出席議員は16人であります。
定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

◎会議録署名議員の指名について

○議長（前田篤秀君） 本日の会議録署名議員には、会議規則第125条の規定により、渡部議員、今村議員を指名します。

◎日程第30 一般質問

○議長（前田篤秀君） 日程第30 一般質問を行います。

一般質問は、再質問より質問者の質問時間を30分以内として、一問一答により行います。

通告の順により発言を許します。

通告1番、渡部議員。

○7番（渡部正騎君） ー登壇ー

通告書に従いまして、私のほうからは交流人口の拡大に向けた公共看板の新設及び維持管理について述べさせていただきます。

旭川・紋別自動車道が瀬戸瀬まで延伸され、札幌方面から多くの観光客が期待されています。また、平成32年度には道内7空港の民営化が予定されており、インバウンド需要の取り込みが期待されているところです。

道内の環境が変化していく中で、遠軽町においても交流人口の拡大に向け、点在する観光資源をつなぐ魅力ある観光ルートを設定する等、多種多様な検討が必要で、告知型看板や誘導看板の設置、さらにそれに伴う維持管理が考えられます。

来町された方を観光地や施設へ誘導するため、魅力ある看板の設置が有効と考えておりますが、既存の公共の看板の維持管理もあわせ、以下の4点について町長の考えをお伺いします。

1、平成31年12月にプレオープンが予定されている「遠軽IC道の駅」、そして平成33年にオープン予定の「（仮称）えんがる町民センター」は、ともに遠軽町の交流人口を拡大させ得る施設だと期待されているところですが、これら施設への看板については誘導させるだけでなく、魅力を発信する看板が必要であると考えております。これら新しい公共施設に対する看板の建設時期も含めた設置計画等について考えを伺います。

2、町内に設置されている国道沿いの大型看板は、既に掲示している情報が古くなっているものが一部見受けられ、例として挙げられるのは生田原水穂と生田原清里にある「きのこの里」の看板です。この看板を観光客の方が見て、生田原地域はきのこの産地と思

い、ノースキングに購入しに来られる方がいるとのことですが、販売しておりませんので残念そうに帰っていく方もいると聞いています。そういった実情から、国道沿いの情報が古くなった大型看板を修正、拡充する考えはないか、考えを伺います。

3、国道に接していない集会施設や活動促進施設について、誘導看板が不足している現状があり、例として「かぜる安国」が挙げられます。かぜる安国は、現在各種イベントで利用されている施設です。しかし、国道沿いでないため、場所がわかりにくく、町外から来られる方がコンビニ等へ場所を確認しに来るなどの声も伺っております。このような国道沿いには集会施設や活動促進施設において、国道から誘導するための看板を設置する考えはないでしょうか。

4、平成27年6月に上川、十勝、釧路・根室、オホーツクを巡るルートが外国人旅行者の周遊促進を目的とした「広域観光周遊ルート」に認定され、平成27年度から町内に宿泊する外国人客が急増しています。

また、平成26年度に採択された「交流参加型国際観光地づくりモデル促進事業」では、シンガポールの旅行会社と提携することで、満足度の高いツアーを提供していると伺っております。

しかし、遠軽町内の観光看板を確認したところ、多言語化されている看板が非常に少ないと感じました。観光看板の多言語化を行い、外国人観光客の快適、円滑な移動・滞在のための環境整備を図る考えはありませんか。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） ー登壇ー

御質問の1点目、新しい公共施設に対する看板の建設時期も含めた設置計画等について、お答えいたします。

「遠軽IC道の駅」及び「（仮称）えんがる町民センター」に対する誘導看板の設置に関しましては、施設への適切な誘導は当然のことですが、個人型の自動車観光客や高齢者ドライバー、外国人ドライバーなど、多種多様な方々に対して安全で快適な運転環境を提供することが重要でありますので、景観にも配慮したわかりやすい案内誘導看板を設置するとともに、特に道の駅については、施設の魅力を発信する看板の設置についてもあわせて検討したいと考えているところであります。

設置場所につきましては、国道242号及び333号などの主要な道路に面した位置への設置や既存の看板なども活用しつつ、今後計画したいと考えております。なお、道の駅につきましては、現在、国の関係機関と建設時期も含めた案内看板設置の協議を行っており、（仮称）えんがる町民センターへの看板に関しましても、オープン時期に合わせて整備を検討していきたいと考えております。

2点目、町内に設置されている国道沿いの大型看板の修正、拡充についてお答えいたします。

《平成30年3月9日》

御質問において、例に挙げられました生田原水穂及び生田原清里にある看板は、旧生田原町できのこ栽培を奨励する目的で平成元年、平成2年に設置した看板であります。現在規模が縮小され、現状と相違している状況にあります。そのため、盤面の内容変更については看板の改修に多額の費用がかかりますことと、旭川・紋別自動車道の遠軽ICの完成も控えていますことから、改修時期を検討してきたところであり、道の駅のオープンも具体化したことから、活用を検討してまいりたいと考えております。

3点目、国道に接していない集会施設や活動促進施設の誘導看板についての御質問であります。これまでも公共施設につきましては、住民からの要望等により案内看板の設置を行ってきたところではありますが、今後も必要に応じ、案内看板の設置を考えてまいります。

4点目、観光看板の多言語化についての御質問であります。現在、町内観光看板の多言語化を表示しております看板につきましては、太陽の丘えんがる公園虹のひろばの入り口と丸大道路からの入り口、豊里のT字路付近の3カ所で、英語、中国語、韓国語により歓迎と名称の表記を行っているほか、町内道の駅などに設置している観光案内板及びジオパーク関連の看板にも同様の表記を行っているところです。

外国人宿泊者数が順調に伸びていることから、遠軽町を訪れた外国人の方々に満足していただき、またリピーターとして来てくれることが大切と考えており、観光看板の多言語化による環境整備を図ることは必要と考えているところですが、観光看板全てを一度に多言語化するには膨大な費用を伴いますことから、今後におきましては、観光看板の改修等にあわせた中で補助金等の活用も含めて検討してまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（前田篤秀君） 渡部議員。

○7番（渡部正騎君） まず、1点目について再質問いたします。

まず、費用についてお伺いいたしますが、費用については現在行っている事業予算から行うのか、別途予算を組むのかお伺いしたいと思います。

○議長（前田篤秀君） 斉藤地域拠点施設準備室長。

○地域拠点施設準備室長（斉藤隆雄君） 渡部議員のほうからの御質問で、費用につきましては、今、どういったものがあるのか、それと国道などには道の駅に対する案内看板等も設置していただけるような形で協議しておりますので、その部分も含めて検討していきたいというふうに考えております。

○議長（前田篤秀君） 渡部議員。

○7番（渡部正騎君） わかりました。

念のためお伺いいたしますけれども、先ほどの町長の答弁によりますと、道の駅については242号線、333号線に面した箇所、また既存の看板も活用するとありました。その際、費用が発生するかと考えておりますが、今の事業の予算になるのか、それとも補助金などを活用したものになるのか、もう一度お伺いいたします。

《平成30年3月9日》

○議長（前田篤秀君） 齊藤地域拠点施設準備室長。

○地域拠点施設準備室長（齊藤隆雄君） 今の御質問につきまして御説明させていただきます。

まず、国道等に設置するものにつきましては、開発局のほうで2キロ手前、1キロ手前、入り口付近ということで、道の駅の案内看板を設置予定させてもらっております。それと、高規格道路につきましても、1キロ先、それから出入口付近への設置についても開発局のほうで、今検討していただいているところです。

そのほかの看板につきましては、こういったものもいいのかも含めて検討しているところでございますが、費用につきましては今後、予算等に上げさせてもらいながら進めたいというふうに考えておりますが、今のところ費用がどれぐらいになるかというところも含めまして検討しているところでございます。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 渡部議員。

○7番（渡部正騎君） わかりました。

私のこの1番の質問の本旨としましては、このような新しい公共施設に対する魅力を発信する看板ができればよいと思っていましたので、1番についてはこれで了にしたいと思えます。

続きまして2番なのですけれども、きのこの里の看板、平成元年及び2年に建設されて、今は規模が縮小して現状とそぐわないということでしたけれども、また多額な費用がかかることから改修時期を検討したいという答弁いただきました。それに関連してなのですけれども、高規格と関係しているということでしたけれども、清里の看板は高規格道路のルートとは関係していないように思いますので、そちらだけでも早急に行うことは可能かどうか質問いたします。

○議長（前田篤秀君） 大辻生田原総合支所産業課長。

○生田原総合支所産業課長（大辻祐一君） ただいまの御質問にお答えさせていただきたいと思えます。

今、水穂の部分については高規格等の関連もあるけれども、清里のほうは薄いのではないかと御質問の内容かというふうに思いますけれども、ここにつきましては水穂、清里の看板もあわせて今後、改修時期を具体的に検討していきたいというふうに考えているところでありますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（前田篤秀君） 渡部議員。

○7番（渡部正騎君） わかりました。

次に、2番についても1点質問したいと思います。

維持管理について伺いたしたいと思います。実はきのこの里の看板、私も近々でちょっと写真撮ってみて確認したのですけれども、結構さびが見受けられて、維持管理も含めたという今回の質問ですので、定期的な点検をされているのか、もしくはそういう点検義務があ

るのかを伺いたいと思います。

○議長（前田篤秀君） 大辻生田原総合支所産業課長。

○生田原総合支所産業課長（大辻祐一君） お答えさせていただきます。

特段、定期的なというところについては点検をしていないというのが実情であります。ですが、近くを通った際には車等をとめて目視のほうでは点検させていただいておりますことを御報告したいと思います。

○議長（前田篤秀君） 渡部議員。

○7番（渡部正騎君） わかりました。

生田原地区は結構風が強くて去年も木が倒れたりとかしてしまっていて、ちょっと看板等の維持管理について危険性がないかどうかもちょうと気にしていたところでしたので、この質問をさせていただきました。

2番については、先ほどの町長答弁で改修時期を検討したいということでしたので、了解いたしました。

次に3点目については、住民等の要望によって誘導看板の設置を検討したいということでしたので、こちらについては再質問ありません。ぜひ検討していただければと思います。

次4点目なのですけれども、まず、多言語化の範囲についてちょっとお話を伺いたいなと思っているのですけれども、先ほど英語、中国語等3カ国語で多言語化されている看板があるということでしたけれども、私も町に平成28年度に宿泊されている外国人観光客の統計をちょっと確認してみました。平成28年度の宿泊実績を確認しましたところ、シンガポールの方が102人で一番多い宿泊人数になっていまして、次に多いのが中国人で71名、そして次に多かったのがタイとオーストラリアで45名という宿泊客の実績でした。平成28年度全体の外国人宿泊客の人数を見ますと、全体で560人、延べ人数では598人ということになっておりまして、このような実情を踏まえた上で英語だけでいいのか、もしくは他の多言語化も含めるべきなのかを伺いたいと思います。

○議長（前田篤秀君） 菊地商工観光課長。

○商工観光課長（菊地 隆君） 外国人の観光客、統計においては宿泊客数となっておりますが、こちらは平成二十五、六年から比べますと大幅にふえている状況であります。東南アジア系の外国人観光客が多い中ですが、今後階層等を見ながら何の言語が有効なのかを検討してまいりたいと思っております。

○議長（前田篤秀君） 渡部議員。

○7番（渡部正騎君） ぜひ検討していただければと思います。

また、看板の設置の場所についてなのですけれども、観光庁が調査した平成27年度には、訪日外国人動向調査によりますと、外国人観光客が日本に来る目的というのは、主に日本全体だと日本食を食べることが1位になっています。しかし、北海道に限定すると、外国人の北海道への観光内容としては、自然観光というのが8割になっている実情です。

これらを踏まえると、やはりコスモス園や芝桜、さらに丸瀬布の藤園など、町外に自慢できる観光名所が遠軽にはたくさんあると思いますが、国道や高規格などの幹線沿いに多言語化した看板を設置することで遠軽町の魅力を発信できると考えておりますが、いかがでしょうか。

○議長（前田篤秀君） 菊地商工観光課長。

○商工観光課長（菊地 隆君） 遠軽につきましては、外国人観光客が一番に望む自然環境というところでいけば、山彦の滝の観賞とか大平高原の星空観賞というところがありますけれども、今後におきましてはその辺の魅力をさらに発信して、看板の種類、設置場所等を検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 渡部議員。

○7番（渡部正騎君） わかりました。4番については以上です。

最後に全体の質問を何点かしたいと思います。多分、この質問と次の質問で終わりにしたいと思うのですが、まず、今回の一般質問をつくるきっかけになった一つの理由としまして、国が進めている地方創生という枠組みの中で、いかに首都圏の人口を遠軽に定住させるかということを実は考えていました。ただ、定住人口をふやす仕組みをつくるには、長期的スパンで考える必要がありまして、なかなか難しいということで、まず交流人口から始めたほうがよいという記事をインターネットで見まして、このような一般質問をした次第でした。

まず、交流人口をふやすことで遠軽町の魅力を発信し、来てくれた人に定住したいと思わせる仕組みづくりが必要と思い、実は一般質問の冒頭のタイトルの交流人口をふやすという言葉をつけさせていただきました。交流人口をふやすには、景色を見ることも大事なのですけれども、体験型の観光コンテンツが観光客のリピート率を上げるというふうな記事を読みました。遠軽町を見渡すと、犬ぞり、カヌー、乗馬等、白滝地区に多く存在して、また社名淵にはみどり牧場の酪農体験、そしてちゃちゃワールドやピノキオハウスでの木工体験、さらにはロックバレースキーなど、体験コンテンツがいろいろ遠軽町には存在します。これらの体験コンテンツを周知させるために、看板の設置を含めた総合的な町の考えをお聞かせください。

○議長（前田篤秀君） 佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） 議員の今おっしゃっていた今回の質問の最終的なお考えは、定住につなげたいのだということをお初めにちょっと今伺いましたけれども、まずこの話からいかせてもらおうと、交流から定住へと、これも本当に僕もそだねというか、思っております。ただ、ほかに定住というのは、非常にうちも定住政策・対策やっておりますけれども、なかなか、来るのですよ、それで一夏いて、やはりちょっと観光的になっている面もあって、今そこら辺もこれからどうしていくかということをお指示を出したところであります。

定住というか、結果的には人口減少、私も所信表明で言いましたけれども、やっぱり人口減少を抑えるということだと思うのですね。そういった意味で、やはり遠軽に働ける場所をふやすですとか、やはりうちだったら、特に私の場合、政策の一つに自衛隊駐屯地のことを掲げていますけれども、ここがやっぱりふえている、ふやしていただいていることもあります。そういった、あと企業誘致ですとか、町内にそういったいろいろな民間の力を使って雇用の場、それから経済効果を生んでもらうということが一番定住につながるのだというふうに思います。そのうちの一つとして、交流を通じてそのきっかけをつくるという意味で、看板をいろいろ考えていかなければいけないというふうに思っているのは全く私も同感であります。

先ほど来の質問のきのこの看板、俗に言うああいっただのものもやはり多額なお金がかかるというのはさっき職員からもありました。看板って意外とすごい高いのですね。それをどうしていくか、これ財源の問題もあります。1カ所1カ所でやると、本当に町の一般財源でやらなければいけない。まとまったら、もしかしたらいろいろな物の進め方によっては特財が入るといようなこともあります。今、道路の関係もありますよね、道の駅ができて。では、こっち側の看板だけ今何かやっ飛ばしてしまおうかという、やっぱりこれも後でつじつまが合わなくなったりもするので、そこら辺も含めて町の中の看板をこれから高規格道路が延びる、道の駅ができるということも含めて考えていかなければいけないなというふうに思っております。

そして、もう一つ看板、案内看板の御答弁もさせていただきましたけれども、できれば看板は余り立てたくないというのを私は考えております。やはり必要最小限でいきたい。やっぱりごちゃごちゃ余り立てたくない。これは議員もおっしゃったように、自然を見に来られている方が多いというふうに御質問にもありましたけれども、そういった観点からも必要最小限にしたいなというふうに思っております。

今、私なんかもそうですけれども、どこに行くにもやっぱりこのスマホを見て、本当にもう声で何百メートル先右行けとか左行けとかってまで言ってくれる場合もあります。外国人の方も、恐らくそういうものを見て、車でここ数年、シンガポールとか職員のほうも毎年派遣して来てもらったりしておりましたけれども、やはり千歳空港からレンタカーで来られるわけですよね。そういったものを多分利用されているのではないかなと思いますので、いろいろな観点から考えて看板についての設置等考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（前田篤秀君） 渡部議員。

○7番（渡部正騎君） わかりました。

特に看板をなるべく立てたくないということで、景観を損なうような形は確かに町長のおっしゃるとおりだなと思って、今聞いておりました。

これでちょっと最後の質問にしたいのですけれども、仮に今後、看板を維持管理進めていく上で、どのような看板が有効であったかというのを検討、検証していくことが重要で

はないかと私のほうは考えています。例えば、看板の大きさ、位置、デザイン性、あと最後に4番の話にもあった多言語化など、いろいろ尺度が考えられますし、費用対効果の面でも検証が必要かもしれないと考えています。そのようなことを踏まえた上で、効果的な看板として維持管理していくための検討方法に関して町の考えを伺いまして、最後の質問にしたいと思います。

○議長（前田篤秀君） 内野経済部技監。

○経済部技監（内野清一君） まず、御質問の公共看板には、大きく分けまして二つの看板がございます。一つは観光施設のPR、またはその観光施設への誘導を促す看板、もう一つは公共施設、集会施設等への案内看板という形になろうかと思えます。

町が管理していますこれらの看板は、大小合わせまして300を超える看板があります。それぞれ所管している課で担当が違うのですけれども、それだけの数の看板がございます。これらの看板が経年劣化等によりまして見えづらかったり、また、その看板の目的が当初の設置したときより目的が変わってしまったり、そもそも必要なところに看板が設置されていなかったり、そういった状況を改善していくべきとの御意見はそのとおりだというふうに考えております。

町長からの答弁にもありましたとおり、新たな施設への案内看板であれば、そういう施設のオープン時期に合わせましたり、また今、議員のほうからも意見のありました既存の看板を利活用したりとか、そういったことを踏まえてやっていきたいなというふうに、今までも同様にそういう整備の仕方をやってきてはいたのですけれども、今後もそのような形で進めていきたいなというふうには思っております。

また、看板の多言語化に関する御質問ですけれども、平成27年3月の定例議会におきまして、佐藤昇議員からも同様の御質問がございまして、訪日外国人の町内入り込み状況やニーズを捉えて検討していくというふうに、そのときに答弁をさせていただいております。先ほどの答弁においてもその考えを踏襲しておりまして、少しずつではありますが、そういう多言語化について整備を図ってきているところでございますので、御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（前田篤秀君） 以上で、渡部議員の質問を終わります。

通告2番、岩澤議員。

○14番（岩澤武征君） ー登壇ー

私の質問は、マウレ山荘関連施設整備についての極めて素朴な疑問です。

やまびこ温泉をどうするつもりなのか、お湯は大丈夫か、民間業者のためにこんなに多額の町費を使うのか、あるいはまた業者は喜ぶのだろうが、町民にとって町にとってメリットはあるのか、こういう疑問が過日の委員会でこの案が提案されたときに多くの議員から出された疑問です。予算についてはこの後の予算審査特別委員会の審査の中で多くの議員から質問が出されるだろうというふうに思っているところです。

本題に入ります。

《平成30年3月9日》

3月3日の新聞報道では、北海道空港のグループ会社が運営する丸瀬布温泉マウレ山荘が大規模改修にあわせて行う日帰り温泉施設の新設を支援するため、上武利地区第2号源泉施設整備として1億3,000万円を盛り込んだとありました。常任委員会での資料には、このほかに温泉棟建設予定地の購入、マウレ・ミュージアムのリニューアル、専用水道施設などを加え、およそ2億円が予定されています。そこで、次の点について伺います。

1、この事業はいつ、どのように計画されたものなのか、経緯を説明していただきたい。

2、「いこいの森」を含む、この地域全体の町としての将来構想をどのように考えておられるのか。

3、町の貴重な施設である「やまびこ温泉」への影響調査を実施されたのかどうか。

以上、3点伺います。

○議長（前田篤秀君） 佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） ー登壇ー

岩澤議員のマウレ山荘施設関連施設整備についての御質問にお答えいたします。

まず、1点目の日帰り温泉施設はいつ、どのように計画されたものか、経緯を説明していただきたいとの御質問にお答えいたします。

株式会社碧雲堂ホテル&リゾートが計画しておりますマウレ山荘関連施設整備につきましては、昨年8月、文書により平成30年7月リニューアルオープンに向けて大規模改修を実施することが示され、その事業に伴い、町が管理している源泉の湯量調査等について要請があったところです。その後10月に担当役員からマウレ山荘本館及びマウレ・メモリアル・ミュージアムにおけるリニューアル後の概要、日帰り入浴棟建設意向について説明を受けたところであり、11月上旬に北海道空港に対し、事業計画について確認する機会を設けるとともに、その際にも町に対する要請がありましたことから、本年1月以降各常任委員会へ説明させていただいたところであり、

現在、富裕層を含む多様な観光客の獲得に向け、マウレ山荘本館の高級化を図るためのリニューアル工事が間もなく着工する予定であると伺っており、本館リニューアル後は宿泊者専用の入浴施設となりますことから、これまでの日帰り入浴につきましては、新しい入浴施設での利用が見込まれております。これを受けて町といたしましては、今後の観光振興などの観点から、総合的に判断し、新年度予算に計上させていただいたところです。

次に、2点目のいこいの森を含む、この地域全体の町としての将来構想をどのように考えているのかとの御質問にお答えいたします。

当該上武利地区におきましては、森林公園いこいの森を初め、近くに昆虫生態館、やまびこ温泉などが点在しており、遠軽町の重要な観光拠点の一つとなっており、当該地区の観光関連施設全体における観光客数は、いこいの森が大雨災害を受ける前の平成27年度実績で延べ約15万8,000人の入り込みがあったところがございます。しかしなが

ら、昨年3月に旭川・紋別自動車道の遠軽瀬戸瀬ICが開通したことにより、道の駅などへの観光入り込みが大幅に激減している状況となっておりますことから、民間の活力も含めた中でいこいの森を中心とした上武利地区の観光地域づくりを進めていき、交流人口の増加を図ってまいりたいと考えております。

次に、3点目の町の貴重な施設であるやまびこ温泉への影響調査を実施したのかどうかとの御質問にお答えいたします。

現在、マウレ山荘の日帰り入浴者数は約1万9,000人で、そのうち無料入浴者は約8,700人、これはホテルのほうで無料に特別にいただいている方でございます。さらに、70歳以上の高齢者は約6,500人と伺っております。その半数が町民の方々とする、これは仮定ですけれども、3,000人以上は無料で遠軽町民がお世話になっているというふうに想定がされます。

このたび、新しい日帰り温泉棟が建設されたとしても、これらマウレ本館の日帰り入浴者が移行されるだけでありますので、特に大きな影響はないものと考えております。ただ、新しい温泉施設が近くに建設され、話題性もありますことから、日帰り温泉施設の相乗効果を発揮できるよう民間事業者と行政が連携した中で、多くの観光客を誘致できるよう努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○14番（岩澤武征君） 経過とそれから地域の構想について、後でまた述べたいと思います。

予算説明書には、2号源泉、やまびこのお湯として使っているこの源泉ですが、41.2度毎分260リットル、ここに増設をするとありました。2号源泉施設増設ということは、同じ温泉、同じ源泉から2本の管でくみ上げるということなのではないでしょうか。

○議長（前田篤秀君） 伊藤丸瀬布総合支所産業課長。

○丸瀬布総合支所産業課長（伊藤雅彦君） ただいま2号源泉から新しい入浴施設にお湯を引く際に、2本のお湯をくみ上げていくのかという御質問だと思いますが、現在のくみ上げている井戸はそのままでございまして、くみ上げた後にやまびこ温泉に送るポンプが今現在2基交互運転しておりますが、別にもう2基増設しまして配管を変えて、それぞれお湯を分けて送るということになります。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○14番（岩澤武征君） それぞれということは、今、やまびこには毎分260リッター上げているのですよね。そのほかにその源泉から別に新しい日帰り温泉施設のためにお湯をくみ上げるということになるのですよね。そうすると、源泉そのものは大丈夫なのではないでしょうか。倍以上くみ上げると、今よりも、毎分260リッターよりももっと多くくみ上げるということになるのですよね。

○議長（前田篤秀君） 伊藤丸瀬布総合支所産業課長。

○丸瀬布総合支所産業課長（伊藤雅彦君） ただいまの2号源泉の毎分260リッターという解釈ですが、こちらのほうは、道のほうに許可を受けているお湯の量、くみ上げる1分当たりの量、これが260リッターということでございまして、現在やまびこ温泉のほうに送湯しているお湯というのは、月、それから年によってもそれぞればらつきはありますけれども、おおよそ平均で1分当たり50から60リッターを毎日送っています。ですから、1分当たりに換算しますと260リッターの許可をいただいているうち、平均で五、六十リッターですから、まだ平均的には200リッターあると、ただ、これも数字上の話ですので、やまびこ温泉が夏季営業時間というのが1日当たり11時間ですから、営業時間に換算するともうちょっと平均よりもぐんと上がるということですので、いずれにしても許可の範囲の中では現在まだ余裕がありますので、その余裕のある分を貯湯タンクをこれからの実施設計の中の範疇にも入りますが、もうちょっと大きくしてお湯をためるタンクもつくりながらそれを分湯する形になりますので、新たに源泉を掘ってお湯をくみ上げると、そういうことではありませんので御理解よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○14番（岩澤武征君） そうすると、お湯の量については十分余裕があるということなのでですね。そういうふうに理解していいですね。

それで、マウレ山荘のほうでつくろうとしている日帰り温泉の規模というのはどの程度なんでしょうか。聞いていますか。

○議長（前田篤秀君） 伊藤丸瀬布総合支所産業課長。

○丸瀬布総合支所産業課長（伊藤雅彦君） まだ詳しい構想ががっちり決まっているとは聞いておりません。ただ、おおよそ骨格は決まったということで、さほど大きいようなイメージではお話がなかったのですが、今、持ち合わせている情報というのは、これからまさにもう実施設計に入るということですので、4月上旬にはその実施設計がおおよそ固まってくるということですので、その際にもう一度説明を伺うことになっております。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○14番（岩澤武征君） 先ほどの町長の答弁の中で、経緯はよくわかりました。ただ、私としてはやっぱりもうちょっとこの議会にかかるのも1月の委員会だったし、唐突な感は否めないのですよね。この経過でいけば、皆さんのほうでは経過どおりでやっところまでできて、この話がまとまったということになるかもしれないけれども、我々としてはちょっと唐突の感が否めないなという印象を受けています。今後の観光振興にこの施設が役立つということだったのですが、地域の構想としてこの交流人口が激減しているということで、ぜひ上武利地区にたくさんの人を呼びたいということでこの施設をとということなのですが、やっぱりどう考えてもやまびこ温泉と競合するのかなというふうに思うのですね。

それで、企業誘致のための基盤整備ということは理解するのですが、こんなに町費をか

けてやる必要があるのかという疑問もやっぱり残っています。こんなにお金をかけるのであれば、やまびこ温泉のほうのリニューアルにかけたほうがいいのではないかというふうに単純に思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（前田篤秀君） 伊藤丸瀬布総合支所産業課長。

○丸瀬布総合支所産業課長（伊藤雅彦君） 先ほど町長の答弁の中で、今後の観光振興などの観点から総合的に判断をしたという答弁がありましたけれども、まさに、まず観光振興という観点におきまして、一般的な表現ですが観光産業は裾野の広い産業というふうに言われております。なぜかといいますと、先ほどの答弁のとおり雇用であるだとか、観光客による消費の拡大だとか、場合によっては施設を建てるとなれば町のほうにも固定資産税だとか地方税の収入、そういったことも含めてあります。観光振興のほかにもこういった総合的な観点があったのかといいますと、やはり民間、行政問わずに観光資源自体がふえることによって、その地域の魅力がまず高まるということです。そのことによりまして、新たな誘客が促進されるということでもありますので、相乗的な効果があるということですので。そういったことによりまして、新たなお客様が来ることによりまして、今個人の情報発信力というものは以前から比べるとスマホ等を通じまして格段に能力が向上していますので、私たちがあえてPRをしなくてももういろいろな情報が世界に拡散される、そういう時代に入っておりますので、そういった意味で遠軽町のPRにもつながっていくということがあります。

加えて、先ほどの一般質問の中にもありましたけれども、そういう交流人口がふえることによりまして、きっかけとして定住、そういったことにもつながる可能性を秘めているのではないかというふうに思います。定住人口が今、減少していく中で、やはり交流人口を拡大していくということがさまざまなこの遠軽町のまちづくりにとってもいろいろな意味でメリットがあるのではないかというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（前田篤秀君） 暫時休憩します。

午前10時45分 休憩

午前10時45分 再開

○議長（前田篤秀君） 再開します。

伊藤丸瀬布総合支所産業課長。

○丸瀬布総合支所産業課長（伊藤雅彦君） あと、2号源泉の施設の約1億3,000万円、今回予算計上しておりますけれども、その財源につきましては、今、合併特例債を見込んでおります。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 大堀財政課長。

○財政課長（大堀 聡君） 源泉施設の管理事業につきましては、30年度の予算で1億

3,400万円程度の予算を計上させていただいておりますけれども、そのうち今お話しあった合併特例債が1億2,380万円を限度額として予定しております。合併特例債は交付税で70%措置されますので、充当率95%を合わせまして町の持ち出しが4,100万円程度ということになります。

以上でございます。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○14番（岩澤武征君） 観光資源がふえるということは、確かにいろいろな施設、目新しいものができればそういうことになるかもしれないけれども、それにしてもやっぱり一民間業者がつくる、町が持っている日帰り温泉施設と競合する、同じ施設をつくるということについてなかなか納得いかないのですよ、別のものなら話わかるのですよ。

先ほど来、マウレで1万9,000人で無料の人が8,700人とかということがあったのだけれども、新しいほうに行きたがるのが人情で、やまびこ温泉のほう結局どうなるのか、どうしたいのか、どうするのか、今までどおりでこのまま推移していいのかというようなことがどうしても理解できないのですよね。だから民間業者のために一生懸命やって、自前の施設が廃れるようなことがあってはならないと思うのですけれども、その辺の考え方はどうなのでしょうかね。

○議長（前田篤秀君） 伊藤丸瀬布総合支所産業課長。

○丸瀬布総合支所産業課長（伊藤雅彦君） ただいまの御質問は、新しい温泉入浴施設ができることによりまして、やまびこ温泉と競合するのではないかということだと思います。

確かに、やまびこ温泉の影響は全く問題がないのかということ、そういう観点から見ますと、多少なりとも最初のうちは影響は受けるだろうというふうに思っております。ですが、問題ないということもありまして、その一つの考え方といたしましては、日帰り入浴者から見れば上武利地区の、これまでマウレ山荘で入浴をしていた方にとりましては、全く今後は宿泊者専用となりますことから、別棟で新たな日帰り温泉ということになりますので、日帰り温泉の数自体は全く今と同じ状況ということですので、これまでもマウレさんとは一緒に町営のやまびこ温泉は営業しておりますので、その数字が現在の数字に至っておりますので、そういう意味合いで問題はないのではないかとということと、あと二つ目といたしまして、新たな日帰り温泉が一つ建物としてふえますので、マウレ本館、それから新しい入浴施設、そして既存の今のやまびこ温泉ということで、とりあえず温泉の施設数は今度は三つということになりますので、イメージとしては温泉郷、そういった新たな付加価値といいますか、そういったものも創出されるというふうに思われますので、そういったことも含めてあとは日帰り温泉同士の連携、こういったことも新たに模索することによって相乗効果が生まれるのではないかとというふうに判断をしておりますので、競合しつつも一緒にやっていく部分もあるということで、御理解いただきたいと思っております。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○14番（岩澤武征君） 温泉施設があな地域で3カ所にふえて、よくなるということなのだけれども、源泉が同じだから新しいところとやまびこ温泉とお湯は同じですよ。そういう意味ではどうなのかなという気はします。

それはそれとして、こんなにたくさんのお金、先ほど町の経費そのものは4,100万円ほどだという話がありましたけれども、これだけのお金をかけるということなので、町としても何かいいことがあるのか、町民にとってのメリットは何かということをお伺いしたいのですが。

○議長（前田篤秀君） 澤口経済部長。

○経済部長（澤口浩幸君） このたびの一連の事業につきましては、新たに本町に観光施設が建てられると、整備されるということでもありますから、企業誘致というような捉え方が先ほどからも申し上げているとおありかと考えております。

企業誘致をする目的というのは、本町に地域の活性化や経済効果などのメリットがあるということでもありますから、実施するものであると考えております。現状におきましても、マウレ山荘を運営する会社から固定資産税や法人町民税など直接町に納付される税収もかなりの額でありますし、また、食材や燃料費等、これらのものについても地域で調達されておりまして、さらに雇用についても多くの方々が勤務されているということで、これにさらに観光入り込みなどの流動人口が大きくなることによって、消費経済効果も多大なものであるというふうに考えております。そのことから、今回新たな施設が整備されますと、本町にとっても将来にとっても大きな財産となりメリットになると考えておりますので、このたびのインフラ整備等の一連の事業を進めていくということをございますので、御理解をお願いいたします。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○14番（岩澤武征君） 今の話でいろいろなメリットがあるということだったのですが、具体的に固定資産税とか、それから雇用、そういう数字は抑えていますか。

○議長（前田篤秀君） 澤口経済部長。

○経済部長（澤口浩幸君） 税の収入等につきましては、個人情報ということもございますので、現時点では数字についてはこの場では申し上げることは控えさせていただきますけれども、かなりの額ということをございます。今後、新たな施設も整備されますので、そちらのほうからも当然そのような収入があるだろうということはあると思いますけれども、町に直接というような税収だけではなくて、そのほかの交流人口、あるいは勤務されている方々、雇用の方々の消費のことにつきましても非常に大きなものであるということでもありますので、御理解をお願いいたします。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○14番（岩澤武征君） 先ほどちらっと出ましたけれども、この後、一大地域とするために、観光地域とするためにということで、マウレ・ミュージアム、これも先般の委員会で出されておりましたけれども、これに2,500万円というお金を出すということで提示

されていましたが、これはこのとおりに進めるのでしょうか。

○議長（前田篤秀君） 伊藤丸瀬布総合支所産業課長。

○丸瀬布総合支所産業課長（伊藤雅彦君） マウレ・ミュージアムに対する補助について、2,500万円の当初予算を計上しております。ただ、マウレ・ミュージアムの大幅な見直しということで、イメージ的なもの、図面はいただいて私どもも拝見させていただきましたのですが、具体的にこの経費にどのぐらいかかっていくということが、まだ詳細な資料が、これ補助金ですので補助申請ということで新年度に入ってから出てくると思われますので、その時点でどれを補助にするしないも含めて予算の範囲の中で進めていきたいということでもありますので、ちょっと今具体的なことは申し上げられませんが、そういう状況になっております。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○14番（岩澤武征君） いろいろメリット、先ほどお話しされましたけれども、何かやっぱり唐突感があるのです。自前のものをつくるのではなくて、民間企業がつくるためにいろいろな設備をする、お金をかけるということなので、ふぁーらいのようなものではないと思うのだけれども、日帰りの温泉棟をつくるのは向こうの会社なわけですから、そういうふうにはならないとは言いつつ、やっぱり多額のお金が町費が使われるということで、何となくもうちょっと練っていいのではないかなという気が私はします。

構想を今伺ったのですが、それが向こう側のいろいろな要請だったのか、それを受けて町としてのきちんとした計画があった上でのこの計画なのかということが、何となく私自身はぴんと来ていないのです。一つの民間会社の施設をつくるためにということで、しかも町の施設と同じものがあって、少なからず影響が予想されるという施設にこれだけお金を使うということについては、もうちょっとしっかりみんなで議論したほうがいいのではないかなという気がしますが、どうも急ぎ過ぎる感があります。もう少し考える時間が必要だと私は思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（前田篤秀君） 佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） 数点ありました。

まずは、唐突であるとおっしゃいましたけれども、これ私たちが自分で、例えば、道の駅だとか、今の町民センターだとか、直接工事のプランを立ててやっているのと今回ののは違います。議員のみなさん方もよく、民間の活力を利用すれとおっしゃっているかと思いますが、まさしくこの温泉については、相手は民間の中でそういった活力も利用して遠軽の観光振興を図ろうというものであります。僕らだけのペースでは進みません。民間は早いです、動きが。

今は、まず北海道空港、HKKですよ、新聞でよくごらんになるかと思えますけれども、今これから道内の7空港が民間委託、民間になります。その超大手、フランスの大手も何か入るような報道も出ていましたけれども、その中で北海道空港が通る可能性も相当あるわけです。そうすると、道内のいろいろな空港、交通機関を利用した周遊ルート

ほうも相当な力を持ってくるわけであります。そういった中で、私たちとしては民間活力を使いながら遠軽の観光振興、遠軽の奥座敷である武利、あそこの振興を図ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

あとは、もし審議が足りないのであれば、これはもう私たちの建議ではありませんけれども、これはもう会期を延ばすなり何なりして十分にまだ議論はさせていただければというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員の質問を終わります。

以上をもって、一般質問を終わります。

◎休会の議決

○議長（前田篤秀君） お諮りします。

3月10日から11日までの2日間は休日のため、3月12日から3月15日までの4日間は予算審査のため休会にしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（前田篤秀君） 異議なしと認めます。

したがって、3月10日から15日までの6日間は、休会とすることに決定いたしました。

◎散会宣告

○議長（前田篤秀君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日は、これをもって散会します。

午前11時00分 散会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長 前 田 篤 秀

署 名 議 員 渡 部 正 騎

署 名 議 員 今 村 剛 兼